

三重県護国神社奉賛会報

第七十五号

明治天皇御製 (明治四十二年)

もみぢばの 赤きこころを靖國の
神のみたまも めでてみるらむ



奉賛会総会 10月16日(土) 午後2時開催

平成二十二年度
三重県護国神社奉賛会

『総会』開催のご案内

会員各位のご協力・ご奉賛をいただきまして、平成二十一年度も恙なく終了できましたこと、心より御礼申し上げます。
平成二十二年九月一日より新年度に入りました。

つきましては、左記により

「平成二十二年度」(平成二十二年九月一日～翌年八月三十一日迄)の総会を開催致しますので、多数ご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

尚、会員各位には、返信葉書を同封させていただきましたので、来る十月十日までに、出欠の有無をお知らせくださいますよう、お願い致します。

記

一、開催日 平成二十二年十月十六日

一、場所 三重県護国神社

一、時間 午後一時～

「受付」 参集殿

午後二時～

「英霊遺徳顕彰祭」 拝殿

午後二時三十分～

「総会」 南参集室

会費納入のお願い

新年度「平成二十二年度」(平成二十二年九月一日～翌年八月三十一日迄)に入りましたので、新年度会費を納入頂きますようお願い申し上げます。

尚、納入の際は奉賛会専用の振込用紙をご利用下さい。

※送金手数料は奉賛会で負担いたします。

年度会費 正会員 二千元
特別会員 一万円

奉賛会入会のご案内

奉賛会は護国神社の御英霊を恒久的に奉慰奉賛していく事を目的とし、結成され、多くの方々よりご賛同を賜って参りましたが、会員数が年々減少しているのが現状です。

そこで、一般有志の方の入会を進め、会員の増加を図りたく、会員よりのご紹介を宜しくお願い申し上げます。

入会ご希望の方は直接神社へお越し頂くか、奉賛会事務局までお知らせ下さい。

三重県護国神社内 奉賛会事務局
☎〇五九一二六―二五五九

英霊の言乃葉

出撃に際して

海軍少佐 緒方 襄 命

神風特別攻撃隊

神雷部隊桜花隊

昭和二十年三月二十一日

沖縄方面にて戦死

海軍代十三期飛行科予備学生

関西大学

熊本県出身

二十三歳

懐しの町 懐しの人

今吾れすべてを捨てて

国家の安危に

赴かんとす

悠久の大義に生きんとし

今吾れここに突撃を開始す

魂魄国に帰り

身は桜花のごとく散らんも

悠久に護國の鬼と化さん

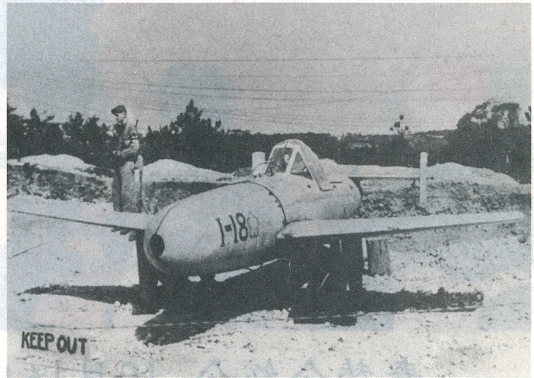
いざさらば 我は御國の山桜

母の身元にかへり咲かなむ

【平成九年三月

靖國神社頭掲示】

英霊の言乃葉（7）より転載



沖縄戦の戦闘のさなかに無傷のまま米軍に捕獲された「桜花」

【解説】

緒方 襄少佐が搭乗した特別攻撃機「桜花」一式陸上攻撃機は、日本初のロケット推進機として名高い攻撃機だが、火薬ロケットの燃焼時間はわずか9秒で、実態はロケット付きグライダーと呼べるものであった。自力で発進する能力がないため、まず母機に吊り下げられて基地を出撃し、敵艦隊の数千キロメートルのところまで切り離され、滑空あるいはロケットを噴射しながら、パイロットもろとも敵艦に突入する。当然武装はなく、機首部に一・二トンの爆薬を詰め込み、車輪も付いていないので引き返しても着陸することはできない。「桜花」はまさに生還を期

し難い人間爆弾である。

開発担当者の名前にちなんで「④兵器」という秘匿名称が与えられた

「桜花」は、昭和十九年（一九四四）八月から極秘裡に開発が進められた。

機体全体を木製にし、翼はベニヤ板にした（ただし実戦機（一型）は胴体と尾部が軽合金）。時速五百五十ノット（千キロメートル）までは空中分解しないようにし、操縦席には

速度計、高度計、前後傾斜計の三つ。操縦桿には火薬ロケットの起動ボタン、これを運ぶ母機の一式陸攻との連絡用の伝声管と簡易通信機を取り

付けただけだった。母機の一式陸攻に吊り下げるには操縦席の前方上方

に輪型の金具で母機のフックに引っかけ、投下する場合はフックに付けた爆管を機上から爆発させて外した。

同年十月に母機からの投下実験に成功、翌二十年一月には無人飛行試験が行なわれ、その後ただちに量産に入った。

「桜花」を使用する部隊は神雷部隊と名付けられ、母機には一式陸上攻撃機二四型を改造した二四型丁が用いられた。昭和二十年三月二十一日、九州南方に現れた米機動部隊に対し

て最初の出撃が行なわれたが、機動部隊のおよそ百キロ手前で米戦闘機の迎撃を受けて、母機もろとも全滅

した。その後も神雷部隊による特攻が行なわれたが、いずれも損害の多く、残念ながら米軍の侵攻を断念させるほどの戦果をあげることはできなかった。

【戦記シリーズNo.③⑨より転載】



「桜花」11型要目

設計・試作：海軍航空技術廠

乗員：1名

全長・全幅：6.066メートル×5.12メートル

発動機：4式1号20型火薬ロケット・

推力800キログラム3基

重量：自重440/全備重量2,140キログラム

最大速度：時速648キロメートル

航続力：37キロメートル/9秒

(ロケット燃焼時間)

発進高度：3,500メートル

武装：弾頭部に爆弾1,200キログラム

生産機数：各型合計約850機